

まんぜ
万瀬遺跡

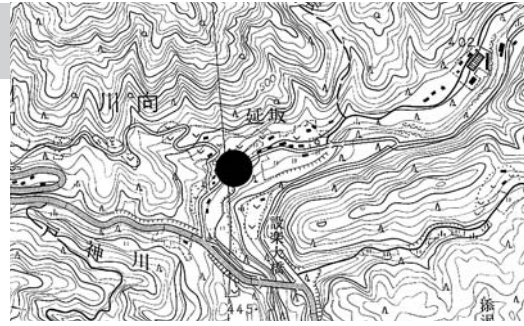
所在地 北設楽郡設楽町川向字マンゼ
(北緯35度6分49秒 東経137度33分58秒)

調査理由 設楽ダム

調査期間 平成21年11月～平成21年12月

調査面積 40㎡

担当者 鈴木正貴



調査地点(1/2.5万「田口」)

調査の経過 調査は、国土交通省設楽ダム工事事務所による設楽ダム工事に伴う範囲確認調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成21年12月に実施された。調査では、県教育委員会の分布調査の結果を受け、1m×2mのテストトレンチを20ヵ所設定した。

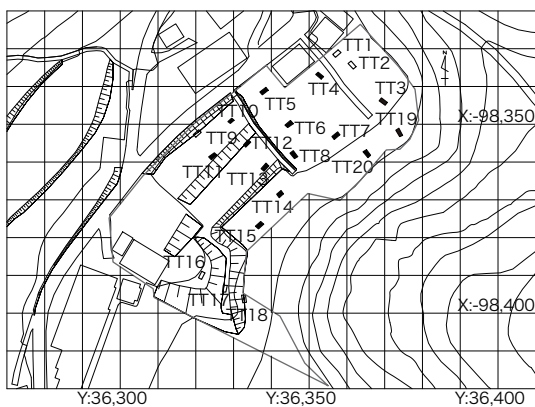
立地と環境 万瀬遺跡は標高約395～420mの境川右岸の東向き山麓斜面に立地している。

調査の概要 県道小松・田口線よりも南東側の北端部で、住宅地を除く畑、茶畑および果樹林を範囲とする。北東端部の畑部分(TT-1～TT-3)と南部の盛土部分(TT-16～TT-18)では遺構と遺物は確認されなかったが、その他のテストトレンチではおおむね褐色粘土の安定した地山が確認され、土坑などの遺構が検出された。

TT-1とTT-2では旧耕作土を除去すると岩盤が露出し、TT-3とTT-19では岩盤を切り出して平坦面を造成した状態が認められた。これらの地点では、岩盤を削り出して平坦面を造成したと思われる。TT-4～TT-15では地山の上位には黒ボクと思われる黒色土が堆積する場合が多く、遺物は中世後期から近世までの陶磁器類が若干量出土した。TT-10・TT-11・TT-13などの現況で崖の端部となる部分では、黒色土が1m以上盛土された部分がある。TT-20は境川に面する急斜面に近い緩斜面の端部に設定したが、遺構は濃密に展開している。本来は境川の方に遺構が広がっていた可能性が推測される。

まとめ 今回の調査では、褐色粘土の安定した地山と黒ボクが拡がり、そこに中世後期以降の遺跡が良好に展開していると思われる。ただし、南西部の状況については不確定な状況である。

(鈴木正貴)



■ 遺構・遺物が確認された試掘坑
テストトレンチ配置(1:2000)



遺跡遠景